

# 新しい時代を担う体力づくり

## 第3回

### 「参画と協働」で変わる市政

養父市行政改革推進委員会が、今年1月にまとめた「中間答申・平成17年度予算への提言」を見ると、事務事業評価制度の導入や予算総額の抑制などの経費削減に向けた提言と並んで「市民と行政とのパートナーシップの確立を図る取り組みを進めること」という、一見、行政改革とは無縁のような提言が入っています。また、総務省が示した「地方公共団体における行政改革の推進のための新たな指針」（平成17年3月）にも「地域協働の推進」という項目があります。

行政改革における「市民と行政とのパートナーシップ」や「地域協働」とは、一体どのような関連があるのでしょうか。今月号では、このことを少し考えてみたいと思います。

#### 求められる「市民と行政とのパートナーシップ」

行政改革と聞いて、みなさんの脳裏に浮かぶのは、制度の廃止や使用料の値上げではないでしょうか。確かにこれまでの行政改革は、お金を節約することが中心でした。

今も無駄遣いをなくすることは大切なことですが、加えて市民のみならずが行政に参加し、市民同士、あるいは市民と行政が力を合わせて、よりよいまちにしていく活動が求められています。

これが「市民と行政とのパートナーシップ」と「地域協働」が目指すものであり、いわゆる「参画と協働」というものです。

#### 行政改革とは？

梅谷市長は、今年3月議会の施政方針演説で重要施策の一つに「参画と協働の推進」を掲げ、「これからのまちづくり・むらづくりは、市役所だけで進めるものではなく、市民と市役所が連携・協力し合って進めることが大切です」と述べています。

全な行財政運営を行うための不断の改革に取り組むこと」と示されています。

以上のことから養父市の行政改革を考えてみると、市役所の仕事や提供するサービスを見直し、より良いサービスをより効率的に提供することが求められているということが分かります。

#### 参画と協働とは？

一方の参画と協働ですが、「参画」と「協働」に分けて辞書で調べてみました。

参画とは「計画づくり等に参加すること」となっています。市民のみならずからすれば、行政の計画づくりに委員となつて参加すること、むらづくりの会議に出て意見を述べることなどがこれにあたります。

次に協働です。これもなじみのない言葉ですが「協力して働くこと」と説明されています。これだけでは簡単すぎて、今一つイメージがつかめませんので、字にこだわって考えてみたいと思います。

「協」という字を分解すると、「力」が三つと「十」からなります。次に「働」は「はたらく」です。このことから「協働」という言葉の意味を